

なすまどか議員が一般質問を行いました

11月27日、なすまどか議員が一般質問を行いました。熊本地震被災者への支援、立野ダム建設の中止、国保料の値上げ中止や差し押さえ問題、重症心身障がい児や家族への支援などを取り上げました。



震災からの復興・復旧について

被災者への医療費減免の復活を！

大西市長は、今年9月末をもって、被災者への医療費減免、国保・介護・後期高齢者医療の保険料減免を打ち切りました。

東日本大震災の際、医療費が打ち切られた宮城県において、3割の被災者が「減免が打ち切られれば、医療機関への受診を抑制する」と答えています。

なす議員は「震災で助かった被災者が、受診を我慢し、健康悪化を招いたり、命を落とすようなことは絶対にあってはならない。医療減免を復活させるべき」と質しました。大西市長は、「相談や見守りで支援を行う」と答え、減免復活については背を向けた答弁に終始しました。

未だ修繕ができない…自宅再建に市独自の支援を！

地震から1年7カ月がたった現在も、自宅や宅地の修繕に着手できず、被災したままの家屋で生活をされている方もい

らっしゃいます。年金等の収入が少なく、修理をしたくてもできない方に対して、市独自の支援創設を求めました。(裏面に続く)

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか 山部ひろし

熊本市中央区手取本町1-1 3階

NO. 1075
2017年12月3日
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：[共産党 熊本市議団](#) 検索

道路・公園・河川の改善、カーブミラー設置など 要望を持ち寄りましょう！

土木センターへの要請にご参加を

身近な道路・公園・河川等で、改善が必要な場所はありませんか？

穴の開いた道路の補修、カーブミラーの設置、側溝の改修や掃除など。下記の日程で、各土木センターへの要請を行います。

どなたでも参加できます。希望

する改善の内容を記載した文書を、事前に共産党市議団へFAXしていただくか、当日お持ちください。どんな様式でも構いませんが、赤旗日刊に折り込んだ用紙などもご活用ください。



とき：12月8日(金)午後2時より

ところ：市役所 11階会議室

【控室から】
高齢者に優しい社会へ

上野 みえこ



地元の校区では、この十一月、校区社会福祉協議会と自治会が一緒になり、町内ごとに「高齢者の集い」を開催しました。コミセンや公民館等を会場に、健康講話やバラエティ・落語など、それぞれに工夫された楽しいプログラムが企画されていました。孤食も増えていることから、お弁当等での会食もありました。婦人会・自治会等の協力で提供された温かな汁物は、とりわけ喜んでいただきました。

高齢化率は年々上昇し、一人暮らし、老々世帯、家族がいても昼間は一人という方も多数おられます。地域での見守り、交流が大切だと痛感します。

地域では、社会福祉協議会や民生委員の方々が協力し、ふれあい給食・サロンなど、多彩に取り組みられています。協力者あつての活動です。心から感謝するとともに、高齢化社会を支えていくためのサービスの充実も求められています。

安心の医療や介護保障、高齢者に優しい社会のために、引き続き頑張っていきたいと思えます。

(一般質問報告～おもて面からの続き)

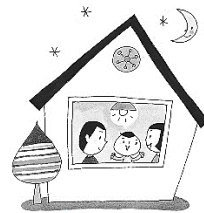
仮設から恒久的な住まいへ～住宅の整備と家賃補助を！

現在、市内では約1万世帯が仮設住宅（みなし仮設）で生活を送っています。入居期間が1年間延長されたものの、全ての入居者が安心して暮らせる住宅へ早急に移行できるよう災害復興住宅の整備や家賃補助制度の創設を求めました。

市からは「市営住宅への入居希望調査を現在行っており、被災者の実態やニーズに寄り添った対応をし

たい」と答弁。

また、子どもが通う学校などで希望する地域に市営住宅がない場合などは「民間賃貸住宅への家賃補助については、今後の状況を見ながら必要に応じ検討したい」と答弁がありました。



重症心身障がい児や家族への支援について

医療的ケア提供できる施設の拡充を！

重症心身障がい児をもつ保護者の方から、「医療的なケアを提供できる放課後デイサービスに子どもを通わせたいが受け入れ先がない」との相談がありました。

「痰の吸引を1時間おきにしないで、夜もまともに寝られない」「車で移動する際も、ちょっとした段差の衝撃で、息が苦しくなるなど発作が起こる。付き添いのヘルパーを市に頼んだが断られた。」「生活を維持するために働きたいが、医療的ケアを提供できる受け入れ先が少なく、働くことができない。」など切実です。

一般質問でなす議員は、子どもの療育とともに、働くための条件整備や家族のレスパイト（休息）のためにも、医療的ケアができる児童発達支援や放課後デイサービスを提供する施設の拡充を求めました。市からは「来年度に向け施設の充実を図るために、施設整備に対する補助を行う」との答弁がありました。

実態に見合った施設の整備を早急に進めることが求められます。



教育の充実について

熊本市でも給付制の奨学金を！

11月15日に、熊本市は「子どもの生活等実態調査」の結果や分析を発表しました（下表に主な分析結果を記載）。貧困が、健康、学習、進路、将来への希望に大きく影響していることがみてとれます。

なす議員は、給付制奨学金に

ついて、政令市20市中11市が実施をしている実態も紹介しながら、経済的な理由で進学をあきらめることがないよう熊本市においても給付制奨学金を創設するよう求めました。

熊本市 子どもの生活等実態調査の結果より

- ◆ 健康面において、所得分類が低いほど子どもに虫歯がある割合は高い傾向にある。
- ◆ ひとり親世帯では、子どもと過ごす時間、話す機会など子どもたちと関われる時間が短い傾向にある。
- ◆ 学習面では、子どもの成績では所得分類が低いほど遅れていると回答した割合が高い傾向にある。
- ◆ 所得分類が低いほど家庭での学習時間が短く、また学習塾の利用が少ない傾向にある。
- ◆ 学校が楽しくない理由では、所得分類が低い層で勉強が嫌い、授業がわからないの割合が高い傾向にある。
- ◆ 子どもの将来・希望では、保護者が希望する子供の進学先は、全体では6割近くが大学以上の希望であるが、所得分類が低い層では4割程度と低い傾向がある。
- ◆ 希望通り進学できると思わない理由として、所得分類が低いほど経済的な余裕がないの割合が高くなっている。
- ◆ 保護者・子どもとも所得分類が低いほど将来に希望を持つ割合は低くなる傾向にある。